

時事新報

第貳千九百二十七號
明治廿四年二月十一日 水曜日
宣曆辛卯正月三日 (戊辰)

(西曆一千八百九十一年)

時事新報定價

時事新報一年三百六十五日一日休刊之代價
運送料廣告料左ノ如ク
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

各地方より時事新報の注文に付
時事新報社は注文に接するも代價を受取らざる間は送らざる定めありに新規注文の方には往々代價を添へずして唯だ注文のみを書面に止り本社に更には代價請求の證書を發し代價を受取るまで送送を差控へ居り候事にて雙方の不便あれば御注文の節は必ず代價を添へて御申込被下度尤郵便切手代用は御断申上候
代價を受取りたる時は直ちに新報を運送し其封名宛の傳に何月何日と記入致し候はれば右の月日まで新報の代價運送共相續候證に付別に受取書は不送出候左様御承知可被下候
月曜日より大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達求めに應ず此場合には新報代價一個月前金八割にして地方に郵送する分は此外に郵便の實費を承取可し

時事新報

願くは農商務省を煩さん

農務以前に於て農商務省が民業を煩さんとして新利を興さんとするより農工商民の後福となり代表者となりて其運に憤るの妨害を排除し以て商業の發達を自出せらるるを本分とすべし而して今の時事問題中には同省が其本分を盡さざる可らざるもの少からずとて當局者に促す所ありしが再び今に急言して敢て農商務省を煩さんとするは他にあらざる特別地價修正案と鐵道、郵船兩會社の命令書修正案に關する事情を認めし地價の實況を調査すれば同一の地位意味にてありながら方面の高下は甚だしき差違ありて一見その不公平に驚かざるはあらず地價評定以來幾星霜を経過したるの今日にては買買の値段によりて不公平も自然に公平を保ち得たるは經濟の道理の親屬として之を強て修正せんと思はば却て財産上の既得權を害するのみならず莫大の費用を要して而も公平を期するも難く人民の憤慨を招き政府の信用を失ふに至るや明白なれば苟も政道の進行せざる限りは斯る議論の通過すべしとは思はれず聞かば佛蘭西にても數十年來地價修正論の國會に議はれざるもなしと雖も亦常に否決せられざるもなき所也恰も一の儀式の如く遂に實行に至らざるも一修正にして對俄且つ然り況んや特別修正に於てをや唯昔の勞面を比較してトト思ひ出づるに勿々呈出するの議案に外ならざれば我が國會に於ても萬々可決するも可かる可きは敢て議を容れずと雖も其當に當れる農民の身に取ては先年も地價調査の事ありて高き地價の低められたるもありし事なれば低きものも高められたるも亦測り難き心

地して彼の黨略その他種々の事情を聞くに從ひまするも容易に安心を決す可らず之が爲め田地買買か今の季節にも手を空し其成行を觀望するのみならず一日の勢動は幾干の所得となるべき實業者の身を以て却て日々の寄合相談に無用の飲食を費し或は委員を上京せしめ或は請願書を呈出する等費す所ありて産する所なきのみか遊手空論の輩は之を奇貨として種々の説を散り飽きて農民の散財を過して以て己れを潤すの實に供せんとする者もありて間接に民間の損害は甚しきものなる可し左れば地價修正の遂に行はるべきや否やは敢て心を勞するに足らずと雖も其疑懐の中に懸す所の損害は決して冷眼に看過するを得可らず知らず實業の後福となり代表者たるべき農商務省は念ふに茲に至りて一片親切の情を懷するや又會社に對する命令書修正の議案とて我輩の傍で詳論したる如く其影響を受くる者は一會社に非ずして幾多の株主あり幾多の株主に非ずして一般の商界あり蓋し株券は甲より乙に移り乙より丙に移り貸借の抵當となり又その抵當とありて運轉轉機りなければ其損害の及ぶ所は廣く且つ大にして嗚へば石を池の中に投じたるが如く塵々層々として遂に海岸を打つに非ざれば已まざるを徒に法學書生の口吻を學んで命令書の文字を云々するが如きは殆んど兒戲に類するものにして商安何によりてか托せん經綸何を以てか立たん是も前記の特別地價修正と同じく我輩に於ては萬々國會議場を通過するも可からずと信する所なれども商人は猶ほ未だ曖昧不穩の中に迷ひ動もすれば其成行の覺來なきに動かされて爲めに心を傷ましめ金を損するも其幾干あるやと知らず實業の後福となり代表者たるべき農商務省は念ふに茲に至りて一片親切の情を懷するや蓋し事の結局の判然信を置くに足らずして中間の不測の變に悩まざるの損害は曾て實業社會にも屬々經驗したる所にして其最も適切なるは彼のフランス條約あり如何なる故にや先年來りれを有無無量の間に擲つて未だ其落着きを決せざるが故に各種の商品は相場所を得ずして其取引を妨げられ經濟の運行を滞らし商業の發達を阻するに非ずや其實施せらるる事なきの最も確實なるブルス條約にても唯半空に懸あるが爲に商界の損害實に此の如くれば新に世上に現出し而して益々たる地價修正及び命令書修正の議案に對しては假令之道理上行はる可らざるにもせよ營業の農商民なる者が如何にして其疑懐の情を一掃し容易に安心を決するを得んや損害の大なるも亦推して知るべきのみ我輩は農商の利害の爲めに實に之を覗るに忍びざる者なり政府に於ても定めて同意ならん可らば宜しく地方長官に内閣して特別修正の決して行ふ可らざる次第を告げ以て民間を安撫致し又鐵道、郵船兩會社にも同様の筆法を施して遂に商安を維持するに必要あらざるも左りどては又國會を蔑視したりとて却て反動を招くもともあるべく政府に取ては實に難儀の處なる可らざる

日本軍艦土耳其行紀事

十二月廿二日ボルトセッドに於て 野田正太郎
ボルトセッドは地中海南の一港にして蘇士運河方に盡くる所にあり朝に一船を迎へて夕に又一船を送る運河出入の船泊り場としての樹て林の如く集ると共に歐洲各國の噴火詰り者浮浪者下等婦人小商人僧侶等に至るまで此一小市内に雑居し至て人氣の恐るる所あり希臘人あり土耳其人あり佛蘭人あり英人あり猶太人あり亞利伯あり此方にマホメットの堂宇圓く半空に聳れば彼方にカトリックの寺院、十字架高く青天を穿せり、浮腫腫の汚氣紛々として東洋仁義の人の鼻を刺し雖も皆決して地中海の蒼々を望み手を翹して萬福の林立を詠はボルトセッドは實に地中海の關門ある哉ボルトセッドは實に壯快の一天地ある哉と時ばざるを得ず我比歐金剛は此の如くボルトセッドの左岸に碇泊し土地の人々の目に見慣れぬ日章旗を四方に輝かし七百人の將卒三日の間に代る／＼上陸して足に任せて市中を經れば日本人の珍しさに我もく／＼立ち出で見るも可笑し、回顧すれば香港を出る前此行の由來を記して歐洲四五の新聞に投しヨロポより土耳其兵卒に依りて同く土耳其の新聞に寄せしが夫れかあらぬか此地の新聞は數日前より日本軍艦の來着を報したる由にて遠人毎にムルトグロールの士官文字は如何に書くや等の問を發せざる可く中には早くも日本の言葉を覺え「今日は「有難う」寒い」などと廻らぬ舌を廻して日本人の愛想を取る店もあり賑はしきと云ふばかりなれし余一日或商店に到りしに此家の番頭にやあらん希臘人なるがいろ／＼余に尋ねたる末日本と土耳其とは萬里の海を隔て其其甚薄然るに何故に貴國の人は斯く土耳其に親切を盡さるや其意を得ず思ふに日本は東より土耳其は西より相結びて露西亞に對する約あるに非ずやと左も不思議そうに問ひ掛けたる故余は御掛念無用あり四海皆兄弟なりとの一言を發して去れり、蓋し利名の外胸一寸の餘裕なき輩は日本が此度の壯行を聞いて怪み思ふも敢て無理には非ざるなり

十二月二十一日日曜日なり空地地好く晴れ渡り此頃の寒さに引き更へ太陽輝々として其温光を世界に放ち氣限りなく朝に風限りなく清し、例の如く日曜の分隊出で水兵大夫に至るまで服を改めて兩儀に整列せり喇叭の音も更たく方の如く驟給の事終るや内田副長總員とクオームー一隊々申開けたる此行は歸り我海軍等の一軍一隊全體を許せらるは將に地中海に及ばす些少の備能く／＼心して市中を徘徊し可からず一度惡基た難きものか上げ下ろしに上り下り土耳其の如きものあると云ふなり土耳其國を僅はして興隆平生に倍すものあり

○特別地價修正法
院議員が撰舉區民院議員が撰舉區民りて利害得失同じ無慮からず而して實行法案を審議せざるが其法案の

田畑の地價は明治二十九年より明治二十三年に修正す
第二條
特別地價修正法

第二條

第二條

第二條

第二條

第二條

第二條

第二條

第二條